※令和４年度以降入学生用

学校番号	3038

令和５年度　理数科

教科	理数	科目	理数数学Ⅱ （文理学科文科）	単位数	６単位 （内３単位）	年次	２年次
使用教科書	数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ｃ　（数研出版）						
副教材等	4STEP　数学Ⅱ＋B、数学Ⅲ+C　（数研出版） チャート式　基礎からの数学Ⅱ＋B、数学Ⅲ+C　（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、まず講義で基本的な内容や解法を理解してもらいます。その後、課題解決のため、結果を予想し、よりよい解決方法を自分で考え、解決していくようにしてください。そのため、授業で問題演習も随時取り入れ、自分で考え、周りの人と協働で考える活動も行います。
・問題集用のノートを用意し、問題集の問題を自分で解いてください。また、各自答えあわせをして、自分がどこまで理解できており、どこでつまずいているのかを知ってください。
・家庭学習における課題を定期的に提出してもらいます。計画的な学習習慣を身につけましょう。

２　学習の到達目標

数学Ⅱ【三角関数、図形と方程式、微分法、積分法】と数学Ⅲ【極限、微分法、積分法】の内容について系統的に理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養い、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにするとともに、それらを的確に活用する態度を育てる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学的活動を通して、式の計算、関数、極限等における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。また、事象を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の技能を身につけ、的確に問題を解決できる。	数学的活動を通して、式の計算、関数、極限等における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え、論理的に考察するとともに、思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考察し、表現できる。	数学的活動を通して、式の計算、関数、極限等における考え方に関心を持つとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを進んで活用しようとする。また、自分自身の学習についての振り返りを行い、評価・改善をしようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	数学Ⅱ第1章　いろいろな式 数学Ⅱ第3章　図形と方程式 数学Ｃ第4章　式と曲線	数学Ⅱ いろいろな式 (理数数学Ⅰで発展扱い既習済) 数学Ⅱ　第3章第１節 点と直線 数学Ⅱ　第3章第2節 円 数学Ⅱ　第3章第3節 軌跡と領域 数学Ｃ　第1節 2次曲線 数学Ｃ　第2節 媒介変数表示と極座標	a:式、図形、曲線に関する基本的な概念を理解し、知識を身につけているとともに、式、図形、曲線を用いて事象を表現・処理する技能を身につけている。 b:式、図形、曲線の考え方を用いて、事象の考察や表現をし、その過程を振り返ったりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 c:式、図形、曲線の考え方に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	提出課題 提出ノート 観察
二学期	数学Ⅱ　第4章　三角関数	数学Ⅱ　第１節 三角関数 数学Ⅱ　第2節 加法定理	a:三角関数に関する基本的な概念を理解し、知識を身につけているとともに、三角関数を用いて事象を表現・処理する技能を身につけている。 b:三角関数を用いて、事象の考察や表現をし、その過程を振り返ったりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 c:三角関数に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	提出課題 提出ノート 観察
	数学Ⅲ　第2章　極限	数学Ⅲ　第1節 数列の極限 数学Ⅲ　第2節 関数の極限	a:極限に関する基本的な概念を理解し、知識を身につけているとともに、極限を用いて事象を表現・処理する技能を身につけている。 b:極限を用いて、事象の考察や表現をし、その過程を振り返ったりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 c:極限に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	提出課題 提出ノート 観察

※令和４年度以降入学生用

三学期	数学Ⅱ　第6章　微分法と積分法	数学Ⅱ　第1節 微分係数と導関数 数学Ⅱ　第2節 導関数の応用 数学Ⅱ　第3節 積分法	a：微積分に関する基本的な概念を理解し、知識を身につけているとともに、微積分を用いて事象を表現・処理する技能を身につけている。 b：微積分を用いて、事象の考察や表現をし、その過程を振り返ったりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 c：微積分に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	提出課題 提出ノート 観察
	数学Ⅲ　第3章　微分法 数学Ⅲ　第4章　微分法の応用	数学Ⅲ　第3章第1節 導関数 数学Ⅲ　第3章第2節 いろいろな関数の導関数 数学Ⅲ　第4章第1節 導関数の応用 数学Ⅲ　第4章第2節 速度と近似式	a：微分法に関する基本的な概念を理解し、知識を身につけているとともに、微分法を用いて事象を表現・処理する技能を身につけている。 b：微分法を用いて、事象の考察や表現をし、その過程を振り返ったりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 c：微分法に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	提出課題 提出ノート 観察
	数学Ⅲ　第5章　積分法 数学Ⅲ　第6章　積分法の応用	数学Ⅲ　第5章第1節 不定積分 数学Ⅲ　第5章第2節 定積分 数学Ⅲ　第6章 面積、体積 微分方程式等	a：積分法に関する基本的な概念を理解し、知識を身につけているとともに、積分法を用いて事象を表現・処理する技能を身につけている。 b：積分法を用いて、事象の考察や表現をし、その過程を振り返ったりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 c：積分法に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	提出課題 提出ノート 観察

※　表中の観点について　a：知識・技能　b：思考・判断・表現　c：主体的に学習に取り組む態度